

部局謄

関正夫

昭48
昭41
昭33
·
·
·
10 4 4

（九州大学）
大学教育研究センター
工学部

広島大学に転任ってきてまもなく、私は、組織の一員として大学紛争に取り組むことになりました。新米教師が、工学部を代表して全学の大学改革委員会委員に選出され、戸惑いも少なくありませんでした。

その後、改革委員会が提案した大学教育研究センターが設置され、運営委員会や管理委員会のかたがたの推挙で同センターの専任教員の採用につきました。ここでは、六八〇七年の大学紛争期に問われた教育問題の解明とその解決方法の検討が私の研究課題であり、この仕事を今日まで続けてきました。しかし、この間の成果は、研究方法が未確立であり、きわめて不十分でありました。にもかかわらず、二十余年にわたり、本センターの内外の研究員や工学部のかたがたはもとより、学外の大学関係や行政関係のかたがたに、精神的にも物質的にも多くのご支援とご協力を頂

広島大学 大学教育研究センター 第22回 研究員集会

たはもどより、学内のかたがたに、精神のご支援とご協力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

最後に、広島大學の構成員の皆さんに検討していくべきことがあります。それは、今後広島大学において、高等教育研究の機能・役割をどのように考え、

昭29	・	4	(公立学校教員)
昭36	・	4	(広島商科大学)
昭38	・	10	(福井大学)
昭42	・	4	教養部
昭49	・	6	総合科学部

総合科学部英語講座

このたび退官されることになり、まことに寂しさを禁じ得ない。先生のご健康とご多幸を、心から祈念する次第である。

大学教育研究センターは、前身の「大学問題調査室」を継承して一九七二年に創設されて以来、二十二年有余にわたる活動を行ってきた。閔正夫教授は、その間、大学改革委員会委員、学内併任研究員、専任教授、センター長として、終始その発展に尽力してきた。特に、理工系教育や一般教育の領域を中心に大学教育研究に多大な足跡を残されたが、ご功績の一端は、日本工業教育協会業績賞にも與える。

どのように位置づけるのかということであります。世界的な視野で見たとき、新しい時代に向けて大学における学問・教育等の自己省察を試みる、また、大学の将来像を検討する場合には、その知的基盤としての高等教育研究の役割は今後ますます重要なになるのではないか、と考えられるからであります。

戦中戦後の変動期に育った私たちの世代は、落ち着いて勉強もできないうちに社会に放り出されたような気持ちはもつています。八年間で在職した広島大学を去るにあたっても、同じような感慨があります。

東広島キャンパスの広々とした快適な環境で、これから遊びと過ごしたいと思っているうちに停年を迎えてしまった、というのが今正直な感想です。

しかし、このような変動期であつたからこそ、学内の多くの教官や事務職員のかたがたの知己を得、一緒に仕事をする機会を持つことができました。公私にわたってお世話になつたかたがたとのことが、苦しい中での楽しい思い出として残っています。統合移転を完了した広島大学が、内実ともに充実し、発展していくことを願つてやみません。

ノルウェーのフィヨルドの桟橋にて（1994年8月）

◎事務系・技術部
経理部

經理部

「仏の藤本」と慕われてこられた。身近な英語講座の中では、外国语教育を取り巻く常に厳しい状況を、英文学的ユーモアとキリスト教的精神で乗り切るよう絶えず指導していただいた。ご出身も含めると、約四十年本学に関係してこられた広島大学の柱のお一人でもあられたので、先生が去られると思うと戸惑いを禁じ得ない。

しかし、紛争時より今日まで激務が続いた、とお聞きしているので、ご退官後の市立大学で少しのんびりしていただければ、と思います。そして、今後とも学問のご指導をよろしくお願ひいたします。

廣瀬未子	齊藤温己	吉田中垣
新川恭子	歯学部附属病院	砂屋敷忠
島津信子	工学部	
大野明正		
生物生産学部		
前田良雄		
附属図書館		
和田天友		
福留武士		
附属学校部		
坂本恭之		

法学部・経済学部
石山嘉三
小田太郎
医学部
片岡節子
平田千壽子
木原英
松川宏
医学部附属病院

研究室の諸君と動物学会大会出席記念

沖縄万座ビーチにて（前列左が筆者）



総合科学部人間行動研究講座

小林 悠

（部局歴）
昭34・4 医学部
昭44・4 教養部
昭49・6 総合科学部

「広大とともに四十五年」

昭和二十五年に広島大学入学して以来四十五年が経ちました。人生の大半を広大で過ごしたことになります。理学部学生時代は大学を含めて九年、医学部生理学教室では十年お世話になりましたが、昭和四十四年に教

養部へ来て以来、何と二十六年も経つてしましました。

それは、教養部改組、総合科学部創設、大学院環境科学研究科設立、同生物圈科学研究所設立、学部のコース再編成、大綱化、そしてキャンパス移転、と組織・制度の改革やカリキュラムの改変に明け暮れた二十六年であります。これらに費やした時間とエネルギーをもつと研究に注ぎ込んでいたら……と思つ

てももう遅い。しかし、そんな環境にありながら、最後まで自分の研究生活を楽しむことができたのは、私を支えてくれた共同研究者たちのおかげである、と深く感謝しています。

いま、自然科学系大学院の再編成と重点化の動きが進んでいます。これができたとして、はたしてうまく運営されるのでしょうか。各学部は、それぞれ独自の理念・目的を持つて生まれ、独自の歴史を持つています。重点化のための無理な再編成でなければ良いが、という私の不安が、単なる危惧に終わるよう切に祈る次第です。

＊

＊

＊

＊

＊

＊



ロンドン大学での「ハイク・シンポジウム」にて（日本大使館発行「JAPAN No.574」一九九四年八月二日号に載ったもの）

文学部英文学講座

湯浅信之

（部局歴）
昭36・4 広島大学分校
昭39・4 教養部
昭45・2 文学部

一方、若い学生の信望も厚く、特に、女子学生の人気は本学部一だと思います。このような先生が、六十三歳という年齢故に退官されることは、とても残念であり、無念でもあります。

（人間行動研究講座 安藤正昭 記）

最近では、記憶や遺伝子発現の調節にも興味を示され、今でもまだ研究を続けられています。外観だけでなく頭もスマートで、研究の流行に非常に敏感です。

一方、若い学生の信望も厚く、特に、女子学生の人気は本学部一だと思います。このような先生が、六十三歳という年齢故に退官されることは、とても残念であり、無念でもあります。

最後に、私は日本語で本を書いたことがありません。これまでの私の著書は全て英文で、一冊を除き外国の出版社から出たものです。このたび、岩波文庫で「対訳ジョン・ダン詩集」を出すことになりましたが、これが私の最初の日本語の著書です。

（部局歴）
昭29・9 文学部

二回の南極越冬観測、八回のインド農村調査、二回の熱帯古環境調査と、常に危険と隣り合わせの仕事でありましたが、この間一人の事故もなく成し得たことを最大の喜びとし

ています。研究の多くは若い方々が引き継ぎ、アカデミック・ライフの総決算は、数冊の書

私のこれまでのやり方は、皆様にお勧めできるものではありませんが、大学を去るあたっての私の自己点検としてお読みいただければ幸いです。

＊

＊

＊

＊

＊

文学部自然地理学・地域学講座

藤原健藏

（部局歴）
昭29・9 広島大学分校
昭37・11 教養部
昭39・4 総合科学部

昭49・6 文学部

昭53・4 文学部

昭49・6 文学部

文学部言語学講座

吉川 守

（部局歴）
昭36・4
(神戸市外国语大学)
昭40・4
文学部



ライデン大学 Veenhof 教授とミュンスターにて - 1985年夏

私が広島大学に着任したのは昭和四十年、退官する一九九五年でちょうど三十年になります。振り返つてみると、きわめて平穀な三十年であつたと思われますが、動とすればやはり昭和四十年前半の大学紛争が、印象に鮮明です。昨年の夏、ベルリンの遊覧船の中で、ヨーロッパに留学中の学生たちと日本のアツシリニア学について話し合っていた時、国際アッシリア学会に初めて出席されていた三笠宮崇仁殿下が談笑の輪に加わられ、何かの話題の際、「かつての大学紛争で日本の大学も変わるのはいかと大いに期待していたけれども、結局なにも変わらなかつた」という意味のお話をされた。

日本の大学は、今また大学改革の波に大きく揺れています。しかし今、日本の大学に起

こりつつある問題を自覚し、自らを改変し、向上しようとする意識と意気込みがなければ、結局意味のない大学改革に終わることになるかも知れません。

* * *

吉川先生は、古代メソポタミアのシュメール語がご専門で、国際雑誌 *Acta Sumero-Lingua* の編集主幹をしておられます。一昨年、シュメール語動詞組織に関する長年のご研究がこの雑誌の別冊として刊行されました。そうした先生の

学問に対する真摯な態度を手本とし、当教室から幾多の俊英が育っています。

一方先生は、学生のソフトボール大会に参加されたり、釣果を刺身やフライにされたりもある気さくな方です。神戸市生まれのカーブファント。これからもご健康に留意され、ご活躍くださいことを祈っています。

（言語学講座 古浦 敏生 記）

教育学部英語教育学講座

松村 幹男

（部局歴）

昭29・4

（公立学校教員）

昭34・4 教育学部附属中学校

昭38・4 教育学部附属高等学校

昭44・10 教育学部

（部局歴）

昭29・4

（公立学校教員）

昭34・4 教育学部附属中学校

昭38・4 教育学部附属高等学校

昭44・10 教育学部

振り返つてみると、大学卒業後、はじめ五年間以外は全部広島大学でお世話になりました。それも附属中・高（東千田、翠）、大学（東千田・西条）と両方のキャンパスにまたがり、加えて附属時代には、附属小学校の英語の授業も担当させていただきました。貴重な経験でした。幼稚園だけが抜けますが、長女が附属幼稚園の二期生に入れていただき、保護者としてかかわりを持つことになり、お世話をになりました。

教育の世界には、経験だけでなく理論が必要ですが、具体的に子どもを前にした実践が

重くのしかかります。その授業実践のなかで、私はささまざまのこと学ばせてもらつた、との思いを強くしています。しかし、授業を受ける人たちに対して果たしてこれで本当によかつたのだろうか、との思いが消えることはありません。退官後的人生で許されるならば、時間に追われることなくそれを追求し、反省したいと思うこの頃です。

長い間、有難うございました。

* * *

松村先生の博士論文「明治期英語教育研究」が示すとおり、ご専門は歴史ですが、英語のリーディングからしまで幅広い分野に関してご指導をいただきました。

先生は、ライフワークと呼べる研究の必要性を説かれ、解体新書の精神を学生に吹き込まれました。四年間の附属中・高等学校長併任中、大学での重責を果たされ、数々の学会・研究会会長を歴任されました。敬意を表すとともに、ご健在で一層のご活躍をお祈り申し上げます。

（英語教育学講座 三浦省五 記）



春4月、学部生とともにのどかな一時を楽しむ

教育学部日本文化学講座

斎藤 榮

（部局歴）
昭39・4
(玉川大学)
昭55・4
学校教育学部
昭62・4
教育学部



グライフスヴァルト大学の院生たちと筆者

これまで約四十五年間、広島大学をはじめ留学を含めて国内外の幾つかの大学で大学生活を送つてきて、勉学と研究、教育と指導に携わってきた私の生業は大学人としか見られないのか。顧みて、いろいろな生存の条件やしがらみ、閉ざされた状況から自己を解放し、市民として選択し、総じて自由な生を活きてきました。広島では、学生に対してもとよりいろいろな所で、芸術文化が市民社会の中で役割を担うべきことを表明してきました。この市民的な生活者の一面が密かなブランドになつていなか。

それはともかく、広島におけるここ十五年の星霜には、自分自身のレーゾン・デートルがあつたと思っています。そこに自己のアイデンティティもあつたと見てています。昨年の夏学期、ドイツのグラйフスヴァルト大学芸術研究所で客員教授として二講義と「戦後の都市景観の比較研究」について演習を担当し、また同市主催で「被爆後広島の都市景観と芸術」について講演し、ドイツ社会の市民たちとも話し合いました。大学人は開かれた市民社会の担い手であるべきと考えています。



斎藤氏は、日本語教育学科設立に際し、比較文化学担当の教授として招かれ、学科完成の本年度末まで、学科整備と新たな学問領域の開拓に力を注がれました。

氏の専門は中世・近世を中心とする西洋美術史ですが、その研究領域は、比較芸術学、比較文化学にわたり、ミュンヘン大学美術史研究所、グラウピウスヴァルト大学芸術学研究所等との国際的な共同研究を積極的に推進されています。地元においても、広島芸術学会の設立に貢献し、広島県、呉市などの美術館活動の委員として尽力するとともに、広島市現代美術館の「ヒロシマの美術」が物語る核時代への警告を芸術学的に位置づけ、内外に紹介しておられます。

多分、学生たちが私から学んだであろう事よりも、はるかに多くの事を私は彼等から得たと思っています。若者たちが実に新鮮な気持ちで音楽その他に対しているのに比して、年をとると肉体的、技術的に衰えているにもかかわらず妙に判つたつもり、つまり頭だけになりがちですが、彼等と共に過して私はこの新鮮な感動ということを思い出しました。

初心忘れるべからず！

今後は、本格的ボケに見舞われるまでこの気持ちを大切にしたいと思います。

教育学部音楽教育学講座

井口博士之

（群馬交響樂團）
（東京フィルハーモニー交響樂團）

昭34年4月
（東京交響樂團）
昭37年4月
（讀売日本交響樂團）
昭51年4月
（非常勤講師）
昭64年4月
（教育學部）



研修旅行で夕暮れの木山をバックに

広大に学ぶ学生たちが、どこまでもいつまでも成長し、大きくなはばたいてくれることを、お祈りして、お別れの挨拶をさせていただきました。有難うございました。

付け加えさせていただくと、西条の酒はとても美味しかったです。

うか。
私はメルヘンの世界に遊んでいたのでしょ
私の眼前に現れませんでした。
た私を一Gの場に引き戻したのは、昭和六十年に福山分校主事に任せられて、否応なく統合移転の指揮を執らなければならなくなつた時です。その後あの醉夢の続きは、二度と家でした。
すべてが自由な無重力の宇宙を漂流していました。浮世離れした桃源郷は、私のように時勢に背を向けたアナクロ天の邪鬼にはうつてつけの棲世の必要など露ほどもありませんでした。浮世離れした桃源郷は、私のように時勢に背を向けたアナクロ天の邪鬼にはうつてつけの棲

教育學部理科教育學講座

教育学講座

定期演奏会での先生のオーボエ・ダモーレの美しい音色は、皆の心に深い感銘として永遠に残ることでしょう。本当に先生有難うございました。
年に間に音学科のエネルギーが充填され、将来に希望を与えてくださいました。

私はメルヘンの世界に遊んでいたのでしょ
うか。

（部局歴）
昭29・6
（広島県食品工業試験場）
昭38・4
（新居浜工業高等専門学校）
昭44・4
（教育学部福山分校）
元
教育学部

昭和二十九年に理学部を卒業後、十五年間の武者修業を経て、やっと戻った母校は紛争の最中でした。それから、二十年半にわたる教育学部福山分校での生活が始まりました。



平成元年九月三十日——福山分校最後の日——
(右は当時の内山事務長)



平成5年卒業の卒論生と共に

すごく遅く（午後九時になつても宵の明星が輝いていた！）、また宵の口若くて寝られなことでした。当地の言葉が関西風アクセントではなく、また、来た当座魚が大層美味しく感ぜられて嬉しく思いました。紙面が足りなくなつてしましましたが、広大で教職員・学生の皆様とともに楽しく仕事をしながら私の専門の学問を進めるに次第に学問や教育の幅を広めることができたことを感謝します。

*

*

*

先生は、東京大学工学部を卒業後、日立製作所を経て昭和五十八年に学校教育学部の教授にご就任になられ、生活科学教育（技術）において機械工学の教育と研究に専念してこれました。この間、紀要編集委員長や教育実践研究指導センター長などを務められたとともに、総合講演「生活に生きる科学技術」をまとめられました。学生に対しては、優しさと厳しさをもつて指導されました。先生の今後のますますのご健康をお祈り申し上げます。

学生に対しては、優しさと厳しさをもつて指導されました。先生の今後のますますのご健康をお祈り申し上げます。今まで構想立案、原稿書きに追われたことを懐かしく思い出します。今まで、教育系大学院改組をめざし新たな繁忙の中になり、その途次半ばにして去るわけですが、学校教育学部はもちろん、広島大学のますますの発展を祈念してやみません。

学部では、将来計画委員として、学校教育学部、学校教育研究科の創設にかかわり、当時、深更まで構想立案、原稿書きに追われたことを懐かしく思い出します。今まで、教育系大学院改組をめざし新たな繁忙の中になり、その途次半ばにして去るわけですが、学校教育学部はもちろん、広島大学のますますの発展を祈念してやみません。

黒田教授は、広島大学評議員、附属三原校園で、文部省や広島県関係の幾多の委員などとしで、各方面に貴重な足跡を残された。学部内でも、将来計画委員、自己点検・評価委員などつねに学部運営の中心的存在であられた。学者・教育者としては、ヤスバース研究や道徳教育の実践面に情熱を注がれた。また、文部省の指導要領改訂をはじめとする諸委員会への参加もありました。また、西独マインツ大学に一か年、在外研究員の機会をいただき、一層の収穫を得たのは有難いことでした。

学校教育学部生活科学教育講座

櫻井照男
さちお
てるお

（部局歴）

昭29・4
（民間）
学校教育学部

「広島大学」へ来たこと（「広島」）

学校教育学部社会科教育講座

黒田耕誠
くろだ
こうせい

（部局歴）

昭35・2
（公立学校教員）
昭40・4
（玉川大学）
昭46・4
教育学部東雲分校

「広島大学」へ来たこと（「広島」）

五十一歳で日立を辞めて、思い切って遠くへ行く気になり（東京住民には、生まれた所から離れたくない人と、どこへでも出て行く人とがあります）、誘いがあつて広島へ来ました。

広島へ來た年の四月、驚いたことは、季節が一つ飛んだと思うほど暖かく、日暮がもの

顧みて、研究が実存論的倫理学に始まり、



附属三原中学校の卒業式で胸上げの祝福を受ける

学校教育学部障害児教育講座

田口則良
たぐち
のりよし

（部局歴）

昭27・4
（公立学校教員）
昭36・4
（広島大学大学院教育学研究科）
昭39・4
教育学部

昭41・10
（福岡教育大学）
昭47・3
（国立特殊教育総合研究所）

昭53・11
（佐中忠司）
（記）

（社会科教育講座）
佐中忠司
（記）

会議の席上、「東京から来ました。よろしく」と挨拶したところ、笑いの渦！

そのはず、鹿児島弁丸出しのイントネーションですので、当然のことですが、それが広島での生活の始まりでした。

さっそく、精神遲滞児の指導法研究に取り組み、市内の多くの小学校障害児学級で授業をさせてもらいました。初対面ということもあって、協力してもらうのに苦労しました。そのうち、行動異常児の療育相談や学校の研究課題に関心が移っていました。指導理論は時代によって変遷していくもので、私自身、主義主張もなく翻弄されたように思います。



修学旅行 高崎山水族館で

理学部附属両生類研究施設発生遺伝学部門

西岡みどり

（部局歴）

昭和37・4 理学部

昭和43・4 理学部附属両生類研究施設

昭和三十七年、広島大学理学部に勤務して以来三十三年間、それ以前の附属高校、大学、大学院、研究生時代を加えると実に四十六年の長期間広島大学で過ごさせていただきました。

私の恩師川村智治郎先生との出会いが機縁となつて、カエルを材料とする発生遺伝学の発展に生涯捧げることになりました。無我

十六年間の学部生活の中で最も情熱を燃やしたのは、東雲小学校の校長時代ではなかつたでしょうか。自由奔放、傍若無人に振る舞わせてもらいましたので、附属小の先生がたにご迷惑をおかけしました。

本年度末には学部が西条へ移転し、東雲小との距離が遠く離れてしまします。今まで以上に両者の協力態勢が密になるよう期待してやみません。

*

*

*

西岡先生は、発生遺伝学研究部門一つで出発した両生類研究施設に、新たな三研究部門を次々と増設され、さらに西条への移転を期に、両生類を材料とした研究を進める上で他に類を見ないほど充実した施設と建物を残されました。これは、先生の卓抜したお力はもとより、研究へかけられた一途な情熱とご努力の跡を物語るもので、このような先生のお姿が人を魅了して止みません。

先生にはいつまでもご健勝で、ライフワークの成就されることをお祈りいたします。

（附属両生類研究施設 種形成機構研究部門 上田博晤記）

理学部構造化学講座
林通郎
(理学部構造化学講座 講師 上田博晤記)

（部局歴）

昭和33・4 (民間にこの間米国に留学)
理学部

停年まで後何年、と他人事のように数えてきましたが、その日が確実に訪れて来ました。在職三十二年間は、長くも短くも感じられました。附属図書館学校教育学部分館長、附属東雲小学校校長はじめ、学生生活委員会や教育実践研究委員会などの各委員長を歴任され、本学の発展に貢献してこられました。

焼酎のお湯割りをよく愛される先生のユーモアを交えたお話ぶりと、暖かいお人柄は我々をひきつけてやみません。これからも健康に留意され、ますますのご活躍をお祈りいたします。

（障害児教育講座 船津守久記）



平成6年10月26日 カエルのがんについて共同研究者の常陸宮殿下とがん学界の権威菅野先生を迎えて

かたがたの暖かいご援助のお蔭だと深く感謝いたしております。

両生類研究施設が設立されてから二十八年間、その発展のために私なりに最善と思う方法で精いっぱいの努力をして、施設長としての責任は果たしたと思っております。従つてここを去るにあたり何の悔いもありません。

これからは自由の身になつて、学外から両生類研究施設の発展を願いながら、私自身の研究でやり残したもの、細々ではありますが継続していきたいと考えております。長い間お世話をいただき有難うございました。

私は恩師川村智治郎先生との出会いが機縁となつて、カエルを材料とする発生遺伝学の夢中で研究に没頭しているうちに、気がつきましたら、すでに停年を迎えることになつておりました。この間苦しいことや辛いことも多々ありましたが、これらをなんとか乗りきることができましたのは、川村先生をはじめとする多くの立派な人々に恵まれ、それらの上に両者の協力態勢が密になるよう期待してやみません。

昭和三十八年二月に三年間の米国生活を終えて赴任しましたが、それ以前には全く列車から下車したこともない初めての土地でした。海と山に恵まれ、歴史的にも興味の深い広島を、もつとすみずみまで訪れておけばよかつたと思ひます。

最近十三年間は、家族と離れた単身赴任でした。始めは解放感のある生活でしたが、年を経るとともに何事も面倒となり、次第に健康にも自信がもてなくなつてしましました。

毎年変わる学生の卒論・修論をうまく完成させてやることに力を使い、理論的に複雑な実験結果は、興味あるデータであつてもすべて後回しにしてきました。やつとこれらのデータの解析が可能となると思います。

長い間、皆様にたいへんお世話となり、心から御礼を申し上げます。

先生は、昭和三十八年理学部化学科に赴任され、昭和四十八年から新設の構造化学講座を担当され、分子化学の教育と研究にあたつてこられました。

マイクロ波分光法による分子構造の研究に取り組まれ、その先駆的研究は高く評価されています。たいへんに研究熱心な性格で、膨大な未解説測定データを解明すべく今日も新しいプログラムの開発に没頭されています。これらの仕事が未完のままご退官の時を迎えられるのは本当に残念です。ご健康には十分に留意され、令後一層ご活躍されることをお祈り申し上げます。

（構造化学講座 谷本能文記）



理学部界面物性講座

山岡究



ブルガリア科学アカデミー物理化学研究所、電気光学研究グループと共に（日本学術振興会派遣、1994年7月）

（部局歴）
昭37・4（米国ハーバード大学研究員）
昭39・11（米国国立衛生研究所研究員）
昭43・6 理学部

「二十七年目のサバチカル 安息休暇」

青春の志を立て本学理学研究科化學専攻修士課程修了後、昭和三十二年八月塩釜港から空の貨物船に乗り、在バークレー市カリホニア大学大学院化學部博士コース入学しました。思いもよらぬ理由から十年余の滞米生活を打ち切り、昭和四十三年六月一日付けて母校の理学部物性学科講師に発令されました。学長団交、学内封鎖、機動隊導入と目まぐるしく移り変わった当時の世相が、今も脳裏に焼きついています。

今日まで二十七年間、教育と生体高分子の

研究にただひたすら走り続けて来た感のみ残ります。最近、理学研究科に遺伝子科学独立専攻ができ、協力講座として参画することになりました。専門の物理化学的技法を、遺伝子の物性研究に応用すべく仕事を発展させました。が、志半ばで停年退官となりました。遅まきながら、自分自身のレフレッシュのために標題の安息休暇を取ろうと思います。

本誌の編集委員長から広大に対する提言等も、との依頼ですが、四百字では舌足らずに終わりますので割愛します。母校が大いに発展することを心から祈ります。皆様ご機嫌よ

う。
＊＊＊＊＊
先生は、物性学科界面物性講座の講師としてご着任以来、貫して高分子の溶液物性を研究してこれました。とりわけ核酸等の線形高分子の電気光学的性質の研究では、独自に開発した装置を駆使し多くの業績を残されました。さらに教授昇任後は、遺伝子科学独立専攻の設立に当つて、専攻への協力講座としての参加を決め、ご尽力されたと伺っています。退官が近づくにつれ、ますます研究に多忙のご様子。ご退官後はゆっくりされ、健康に留意ください。

（界面物性講座 佐野孝之 記）

（部局歴）

昭33・12 理学部

「科学の将来？」

例えば素粒子の研究のように、その成果は知的財産として蓄積されるけれど、生産技術とか市民の生活にはほとんど関係を持たない

ものが、将来も続けられるのでしょうか。自然科学の分野では重大になると思われます。社会に知的好奇心が存在する限り、その充足の為の代行サービスとして存在できる、とする説があります。高度の知的活動としては、閉幕などに似ているかもしれません。しかし、素人でも名人戦の棋譜を理解し楽しめますが、科学では専門家のプロ性に差があります。とにかく、社会に文化的豊かさを与えるものなのだ、というのは「信仰」かも知れませんが、課題の大院重点化において埋没してしまわないことを望みます。

（部局歴）
昭33・12 理学部
「科学の将来？」
研究は、「血圧はいかにして決まるか」というように考えてはどうか」といつたような講義を心かけたつもりです。それにふさわしい学生に恵まれて幸福でした。



盧溝橋、「事件」より57年後

米澤さんに初めてお会いしたのは私が修士二年のときで、先生は助手になりたての新進気鋭の素粒子の理論屋さんでしたが、驚いたことにすでに「オジサン」の愛称を奉られておりました。専門のお仕事はハドロン散乱の解析を主に、幅は広くはないが極めて質の高いものです。

学識・教養は大変広く、深く、しかもその上いつも筋の通った、しかし柔軟性のある考えを主張され、現学部長も、困ると最後は「米澤裁き」に助けを求めております。

（原子核物理学講座 鶴見義雄 記）

医学部生理学第二講座

入内島十郎

（部局歴）

昭37・4（東京大学）
昭54・4 医学部

＊＊＊＊＊
医学部生理学第二講座 入内島十郎



海田、日浦山、地獄岩

が生まれつきを開花させれば良いのです。人真似をせず、個性を伸ばすことです。そうすれば、個性は独創的ですから、必然的に独創的な研究が輩出することになります。

*

*

*

先生は若い頃、電磁流量計の発明者UCLA

(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)のKolin教授のところに留学されました。そこで、無麻醉ラットの血流を測定するというユニークな教室ができあがりました。

先生とは、transposition responseとhind quarter compensatorという研究と一緒にやらせていただきました。前者は新しい環境に移されたラットの循環系の特異な反応であり、後者はラットの後身が血圧の補償回路として働くといううことです。先生はこのように、新しい術語をcoin(=造語)することがお好きでした。

(生理学第二講座 寺西 泰弘 記)

医学部脳神経外科学講座

（部局歴）

昭49・9
（大阪大学）
医学部

魚住 徹



1994年12月8日、教室の忘年会。

昭49・12
（大阪大学）
医学部

魚住 徹

（部局歴）

昭49・9
（大阪大学）
医学部

き人間関係に恵まれたということです。先輩、友人、後輩はもとより、一人ひとりの患者さんとも人間として苦楽とともにできたことは、終生忘れることができないでしょう。むしろ、教育は学生諸君と教員たちに教えてもらつた、というべきでしよう。

これからも広島で過ごしたいと思つています。広島大学をさらに立派にするお手伝いもしたいと思つています。

*

*

*

魚住 徹教授は、昭和四十九年九月に広島大学脳神経外科学初代教授として赴任されました。以後二十年余、一貫して「患者さん第一」、「一生懸命やる」、「若い人を育てる」という三つのモットーのもと、邁進されて多くの業績を残されました。

その間、同門も百三十名、脳神経外科専門医も六十名、学位取得者も四十名を超えるほどになりました。また、その卓越した企画力、指導力を發揮され、多くの全国学会も主宰されました。

今後も、脳神経外科学教室のみならず、広く広島大学のために引き続き指導を賜りますようお願い申し上げます。

(医学部附属病院脳神経外科 栗栖 薫 記)

（医学部細菌学講座）

田坂博信

（部局歴）

昭41・6 医学部

私が広島大学医学部に脳神経外科学講座の新設にあたって着任したのは、昭和四十九年九月一日付けでした。ちょうど「広島大学医学部三十周年記念誌」が翌年出版されるという時期にあたっており、着任早々「これから抱負」の文章を書いて提出させていただきました。月日は流れ、本年は医学部五十周年です。私はちょうど二十年間勤めさせていたいたしたことになります。今この年月を言葉にしようとしても、「夢のようだ」としか言ひません。

ただひとつ、幸いなるかなと思うのは、よ

て研究の機会を与えていただき、昭和四十一年に教員になつて以来、主として抗酸菌の研究をさせていただけました。広島大学における研究を終了するにあたって振り返つてみますと、それぞれの実験をしていた当時が思い出されます。なかでも抗酸菌の培養、培養液から分泌蛋白質 α 抗原を精製する仕事は、肉体労働を伴う繰り返しの多い毎日でした。良き指導者や優れた共同研究者に恵まれ、快い緊張感に満ちた研究生活を続けることができたことを、心から感謝しています。有難うございました。

広島大学は統合移転完了も間近で、さらなる発展の機会を迎えています。ご発展を心からお祈りいたします。



田坂先生は、昭和三十六年広島大学医学部細菌学教室で研究を始めて以来、三十四年間、一貫して抗酸菌の研究に打ち込んでこられました。ライフワークの「 α 抗原をマーカーとした抗酸菌の血清学的同定法の開発」により、昭和六年には日本結核病学会今村賞を受賞され、最近は遺伝子工学を駆使した α 抗原の基礎的、応用的研究で成果を挙げておられます。最後まで実験をこよなく愛し、教育にも打ち込んでこられた先生が、このたび本学を退職されますのはまさに残念です。これらの先生のご健勝をお祈りいたします。

（細菌学講座 吉田哲也 記）

昭和三十六年に吉田先生に医学研究生とし

医学部附属病院薬剤部

福地

垣

（部局歴） 昭45・3（大阪大学）
昭46・4 医学部附属病院薬剤部



交換留学生歓迎会で（1994年4月11日、左から2人目）

ハッピー・リタイアメントとはこんなのを言
うのかと思つたりしています。
広島大学のますますの発展を心から祈願い
たします。皆様本当に有難うございました。

＊

＊

＊

先生は、昭和四十六年に大阪大学からご着任
になり、当時完備してなかつた試験・研究活動
の整備と充実に尽力され、現在の薬剤部を創り
上げられました。新しい薬剤師像を求めた教育
に情熱を注がれ、テネシー大学、マーサー大学
との学部間協定による学生交流のみならず、日
本病院薬剤師会常任理事、国際交流委員会委員
長として全国的に薬剤師の国際化に尽力されま
した。その功績は、全国の病院薬剤師の間で
高く評価されています。

私は先生のご努力に間近に接し、常に感謝と
敬意の念を抱いてきました。ご退官後の先生の
ご健勝を切に祈念いたします。

歯学部歯科保存学第二講座
岡本 莫

（部局歴） 昭37・3（大阪大学）
昭44・5 歯学部

「君子和而不同」 岡本教授が学部長をされ
ていた時、本誌に書かれた言葉です。この言葉
とマズローの自己実現が、先生のお好きな言葉
と解しています。

私が広島大学に赴任したのは、昭和四十四
年大学紛争の最中で、新設のわが歯科保存学
第二講座の一部は学長の仮執務室に予定され
ており、歯キャンパスの主要な出入り口はバ
リケードで封鎖されていました。そして、学
生によつて大学の在り方が厳しく問われ、教
官も戸惑いを露骨に見せながら、その対応に
増と处方箋の洪水、待ち時間への非難の投書
新築中の数度に及ぶ仮移転、梅雨時の掘り返
しによるキャンパスの泥濘化とゴム長通勤、
外来ロビーでの開院式とその感激、患者の急
増と処方箋の洪水、待ち時間への非難の投書
などメディカルセンターが誕生しました。

在職二十四年間は医療の現場で修羅場の毎
日でしたので、大過なく停年を迎えること
とにホッとした気分を味わっています。在職
中に歯キャンパスの赤煉瓦は姿を消し、新装
なったメディカルセンターが誕生しました。

岡本教授は、この二十四年間で多くの成
績を残されました。

医療を取り巻く環境は激変し、教育も医療
も急改革をみる激動の時期にあります。この
未曾有の転換期に、その結果をみないで現場
の中枢を離れるのは残念な気もしますが、一
方、「自分の責務は精いっぱい果たしたんだ」
という満足感に似たものも味わっています。

それから二十五年がいつの間にか経ち、今
は、文部省から新制大学発足以来の大改正と
いわれる大学設置基準の大綱化とやらで自己
点検・評価が行われ、新しい大学像の確立を
目指して、教育・研究のリストラが緊急の課
題となっています。

崩壊直前のベルリンの壁
(原田学長(当時医学部長)とボツダム広場で)

歯学部歯科放射線学講座

和田卓郎

（部局歴） 昭44・1（大阪大学）
昭51・11 歯学部



なりましたし、かえつてますます意氣軒昂の気迫を覚えました。この貢献も何とか果たし得たことも、ひとえに大学本部をはじめ多くのかたがたのお陰と感謝しています。

優れた人材を擁する広島大学、私にとつては雄大な夕陽に象徴された大学、さらなる発展を期待します。

*

*

*

「鬼手仏心」 和田教授室を訪れた方はいつもこの文字に気がつかれています。歯科放射線講座の創設から始まり、構音、嚥下に関する研究を中心に画像診断の発展等、まさに鬼手を用いての十八年間であったと思います。

一方、人々に対しては仏心の境地で対され、和田教授と接した方は誰でも内面的な豊かさ、物腰の柔らかさ、お話し好き（ついでにお酒好き）な人柄に、人間としての交流をいつまでも持ちたくなると思われたことでしょう。

和田教授の病院長時代に歯学部附属病院の自己点検・評価が行い得たことは、私自身も誇りに思っています。

和田教授の一層のご健勝をご活躍を祈っています。（予防歯科学講座 岩本 義史 記）

工学部応用理化学講座
葉佐井 博巳
（部局歴）
昭31・9 工学部
昭37・4 工業教員養成所
42・8 工学部

「原子爆弾ですよ」。この言葉を初めて聞いた記憶は、今も鮮明に残っています。当時の私は中学二年生でしたが、学徒動員で広島市郊外の廿日市の工場にて原爆を体験しました。何事が起きたのか不明のまま、正午頃になつて多くの被爆者が運ばれたり、徒步でたどり着くようになりましたが、その中の一人がぱつりと語ったのがこの言葉です。それから五十年、私はいつのまにか原子核

物理学を研究する身となり、特にここ十年は原爆放射線量の再評価のための基礎データを取つてきました。これは、現在もわずかに残る放射能を被爆建造物から測定し、被爆者の放射線によるリスクを定量的に示すための仕事で、私にとつては運命的なものを感じます。

五十年前の終戦を期に、戦前の教育を受けた者にとって想像すらできなかつた世界になりました。退職するにあたり、今振り返つて思うことは、教育者として自由に考え自由に語ることのできた喜びです。このことは、永久に守り続けたいものです。

五十多年前の終戦を期に、戦前の教育を受けた者にとって想像すらできなかつた世界になりました。退職するにあたり、今振り返つて思うことは、教育者として自由に考え自由に語ることのできた喜びです。このことは、永久に守り続けたいものです。

広島一中、原爆、広大工学部と多情多感な青春時代を過ごされ、生粋の広島人として三十九年間工学部に奉職された先生のプロフィールを特徴づけるのは、何と言つても、時流に流されない信念と独特的の鋭い感性の持ち主であるといふことです。

そのようなお人柄は、教育・研究さらに大学運営の場で一層磨きがかけられ、存分に真価を發揮されました。面倒見のよいことでも有名で、その恩恵にあずかった人は多く、ここに感謝の意を込めてますますのご健勝をお祈りいたしました。（応用理化学講座 岩谷 和夫 記）

工学部改組に応じるために、慌ただしく本学に赴任してから十九年を経ました。その間に、類・大講座制移行、博士課程設置、キャンパス移転と、広大の歴史にとって最も重要な時期を過ごすことができました。また、毎年の卒業生諸氏と終始苦樂を共にしてきた（と自称している？）こと、赴任以前の卒業生の多くとも親密な関わりを得ることができたこと、広大の一員として工業社会に私なりの貢献をなしたこと等、個人としては幸福と満足感を持つて退職を迎えるようとしています。

なお言うならば、移転計画が幾度も変更されたために、移転完了後の本学の推移を見ることができなくなつてしまつたことが唯一の不満です。

私は別にすると、最近の大学を取り巻く環境には不安の念を禁じ得ません。例えは大学評価について、その必要を否定するものではなく、むしろ過ぎに過ぎたと思つていています。けれども、評価は、当事者とは全く無関係な第三者によってなされるだけで十分で、むやみに膨大な書類を作る必要もないでしよう。

工学については、大学総数は多くても研究者と研究費の総量は決定的に少ない。少ない研究費を有効に活用するとの名目で、重点研究に集中し過ぎる結果、研究の空洞化が進行している。これらの重大事態を改善ではなく加速することになりはしないでしようか。

先生は、大阪府立大学を経て五十年に本学工学部に赴任され、「攪拌槽内流动と混合」、

「反応における物性変化と混合」、「スラリー物性及びボリマープロセシング」等の研究をなされてこられました。

研究及び教育に対する熱心な態度は自他共に認める点であり、数多くの学生を育ててこれらをもたらしました。また、化学工学の分野で広く利用されている攪拌槽に関する研究では、独特的の見解を持つておられ、今日までこの分野における指導的立場をとつてこられました。

さらに、中国四国地区化学工業懇話会の理事として長年活躍され、大学と企業との相互交流に対しても多大な業績を残されております。今後のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

（化学工学講座 青田 英人 記）



1990年8月、CHISA'90会議終了後、Ahstrom社訪問（フィンランド）の途中、ヘルシンキ中央駅で

お詫びと訂正

前号（No.316）のフォーラム「広島大学蔵貴重資料について」の記事中（十一ページ）、蘇苔植物（こけ植物）標本のなかで「③藤久次コレクション」となつておりましたが、「③安藤久次コレクション」の誤りでした。

訂正してお詫びします。

工学部発酵工学講座

新見み 治ぢ

（部局歴）昭30・5（公立学校教員）

昭37・9工学部

戦後五十年といいます。原爆被爆五十周年

でもあります。被爆校舎で勉学にいそしんだ（？）人たちも、工学部では少なくなりました。

私自身被爆者ですが、工学部で被爆したので

はありません。被爆後四年を経て入学した工

学部の教室には、窓ガラスの破片が突き立つ

た木製の戸棚が使われていました。五十年の

間に木製の戸棚は次々と廃棄され、灰色のス

チール棚へと変わっていきました。

一度目

その間、二度の移転を行いました。一度目

は被爆建物から工学部内の新しい建物へ、そ

の後十年を経て東広島への移転です。その都

度、移転の実務責任者を受け持つことになり、

建築図面の見方もかなり判るようになります。

た。それが遺伝子実験施設や広島県立大学の

実験室の設計などに役立つとは思いませんで

した。施設部をはじめ事務局のかたがたのご

努力、ご協力に深謝いたします。お陰で「遺

伝子実験施設は広大の参考に見学してください

工学部回路・システム工学講座			
吉田典可	よし だ のり よし	木梨陽康	きり はるやす
（部局歴）昭31・7（九州大学）		（発酵工学講座）木梨陽康記	
昭44・4工学部			



上海動物園にて、元留学生と

など、忘れ難い思い出となるでしょう。
統合移転事業は完了段階へ進みますが、西
条地区の学園環境整備、開かれた大学として
の学外向け活動など、国際的に認められる大
学を目指すこれからの課題も多いところです。

時機に応じた点検・評価を参考にしながら、
見識ある目標を掲げて、本学が一層の飛躍を
遂げられるよう期待してやみません。

* * * * *

先生は、電子システムに関する幅広い分野で
研究成果を挙げられるとともに、厳しさの中に
も慈父のような優しさをもつて学生の教育に當
たられ、多くの優秀な人材を送り出されてきま
した。

大学の組織改革などにも指導的役割を果たさ
れ、お忙しくなるとご自宅からの通勤時間が惜
しいということで、週の半分は大学に泊まり込
みということも日常茶飯事で、そのようなとき
に先生のざっくばらんな話が伺えたのも楽しい
思い出です。

今後のますますの「活躍をお祈りいたします」。
昭和四十四年以来、長い間大変お世話をにな
りました。大学紛争解決と自主改革を皮切り
に、教育と研究の諸活動ならびに管理運営に
係る事項に微力ながら精進できました。これ
もひとえに先達諸賢各位のご指導、ご鞭撻な
らびに構成員皆様方の温かいご支援とご協力
の賜物と存じ、深く感謝いたし厚く御礼申し
上げます。

工学部改組と工学研究科博士課程新設			
吉國洋	よし くに ひろし	吉國洋	よし くに ひろし
（部局歴）昭31・4（民間）		（部局歴）昭38・4（工学部）	
昭40・4工学部		（広島大学大学院工学研究科）	



RCCテレビ放映「テクノエイジ広島」での研究成果紹介



1984年、学生と本四架橋の現場見学

* * * * *

先生は、一貫して粘土地盤の圧密沈下に関する
研究を三十年以上も続けられ、「吉國の圧密理
論」になりました。

退官後も、引き続き教育研究の仕事に就く
ことになりそうで、これまでの研究的主張の
継続ときめ細かい教育をしたいと考えおり
ます。

先生は、一貫して粘土地盤の圧密沈下に関する
研究を三十年以上も続けられ、「吉國の圧密理
論」になりました。

吉國洋

工学部建設構造工学講座

吉國洋

（部局歴）昭31・4（民間）

昭38・4（工学部）

（広島大学大学院工学研究科）



コペンハーゲンにて（1992年夏）

昭和五十三年五月から約十七年間お世話になりました。愉快に過ごしました。千田町の古い校舎に着任し、さてこれからどう仕事を進めていこうか、と考えたのが昨日のことのように鮮やかに思い出されます。この間、多くのかたがたにお世話をになり、また、支えていただきました。心からお礼を申し上げます。

広島大学、特に工学部の発展の時期に巡り会わせたことは幸運でした。研究面でもばかり始めた仕事が発展し、ある程度形をなすところまで見て退職できることを喜び、幸せに思います。これは、有能なスタッフの一

らしい言葉ですが、先生の生き方そのものでもあるような気がします。物事の本質・将来を見据えた着想で、その実現には地道な努力を惜しまれない姿勢には頭の下がる思いがします。今後のご健康とますますのご活躍をお祈りいたしました。（建設構造工学講座 森脇 武夫 記）

工学部応用化学講座

小倉文夫

（部局歴）
昭37・4（大阪大学）
昭53・5 工学部

先生は、昭和五十三年大阪大学理学部より本学に赴任されて以来、約十七年間、応用化学講座の教授として教育と研究に情熱を注いでこられました。温厚で誠実なお人柄は各方面で魅了し、多くの方の信頼を得ています。

ご専門の有機合成化学では、根気のいる仕事にこつこつと取り組まれ、日本化学会学術賞を受賞されるなど優れた研究業績を挙げられました。穏やかで寛大なお姿から想像できない、研究に対する厳しい姿勢を示され、感銘を受けたがたにお世話をになり、また、支えていただきま

きました。心からお礼を申し上げます。

（応用化学講座 大坪 徹夫 記）

工学部発酵工学講座

永井史郎

（部局歴）
昭33・5（公立学校教員）
昭37・4（明石工業高等専門学校）
昭40・5（東京大学）
昭50・8 工学部

先生は、東大応用微生物（現、分子細胞生物学研究所）助教授を経て、昭和五十年、本学工学部に四十二歳の若さで教授として赴任されました。以来、教育面では幾多の留学生を受け入れ、博士を育成されました（十三人）。社会的には生物工学会長として活躍中です。研究面では、嫌気性水処理、有用物質の発酵生産、バイオプロセスの開発等、生物化学工学の新領域で精力的に研究を推進されました。

先生のエネルギー・スケールの大きさに圧倒される思いです。今後のご健康とますますのご活躍をお祈りします。

（発酵工学講座 西尾尚道 記）

明治の教育制度が発足して以来久しく呼び慣れてきた、理、工、農、医、薬など理系学部が、大学院重点化への移行に伴い、新名称のもとに融合化が始まりました。大学教育の多くは今、どこもかしこも自己点検資料の作成に大変です。すでに複雑な「合成語」の新

論」は世界的にも有名です。また、この理論は実務へも応用され、その著書は地盤改良に携わる土木技術者のバイブルとまで言われています。

先生の好きな言葉に「着眼大局・着手小局」という言葉があります。閉塞・将棋の強い先生らしい言葉ですが、先生の生き方そのものでもあるような気がします。物事の本質・将来を見据えた着想で、その実現には地道な努力を惜しまれない姿勢には頭の下がる思いがします。今後のご健康とますますのご活躍をお祈りいたしました。（建設構造工学講座 森脇 武夫 記）

致協力と、卒業生諸君の精進努力のお陰と深く感謝しています。

年をとるとともに本務雜務とともに増え、一年が短く感じられるようになり、次々と迫つて来るスケジュールの消化に追われる日々を送つてきました。もう少しじっくりと腰を落として仕事をしなければ、と思いつつ停年を迎えることになりました。

広島大学、工学部がこれまでに築いてきた教育研究の諸成果を基礎に、さらに一層の飛躍をされんことを祈念して止みません。

先生は、昭和五十三年大阪大学理学部より本学に赴任されて以来、約十七年間、応用化学講座の教授として教育と研究に情熱を注いでこられました。温厚で誠実なお人柄は各方面で魅了し、多くの方の信頼を得ています。

（応用化学講座 大坪 徹夫 記）

（応用化学講座 大坪 徹夫 記）

先生がたが研究活動に専念できるよう環境整備が実現されていくことを期待しております。

（応用化学講座 大坪 徹夫 記）



ブラジル、サンパウロ大学生物化学工学科において（1987） “Biochemical Engineering” の講義のあと（前列の中央が本人です）

明治の教育制度が発足して以来久しく呼び慣れてきた、理、工、農、医、薬など理系学部が、大学院重点化への移行に伴い、新名称のもとに融合化が始まりました。大学教育の多くは今、どこもかしこも自己点検資料の作成に大変です。すでに複雑な「合成語」の新

い出はたくさんあって選定不能ですが、一言にまとめる、「時は淀みなく流れ、宇宙をはじめ社会も自分の体も“変化する”」ということになります。エントロピーとはよく命名したものと思います。

終わりに、楽しい想い出をいっぱい与えてくださった皆さん、本当に有難うございました。

名称で大学院大学がスタートしており、国立大の一〇%ぐらいがこの方向で整備されています。

退職を控えた身で少し恐縮ですが、大学教官も五年区切りぐらいで第三者評価を受け、それなりの待遇を受けるような時代になるのでは、と思います。また、本工学部も科学技術大学院へと発展していくことを思いますが、大学院生も給付制となり、また五〇%以上は本学以外の学生が占めるなど活気のある大学院で、「アイディア」と「ひらめき」のある

先生がたが研究活動に専念できるよう環境整備が実現されていくことを期待しております。

（応用化学講座 大坪 徹夫 記）

（部局歴）
昭32・3（民間）
昭36・10 工学部

工学部化学工学講座

吉村尚真



CHISA '81 にて

*
先生は広島大学を卒業後、民間企業を経て、昭和三十六年、母校の工学部に奉職されました。以来今日まで、三十有余年情熱をもつて教育・研究にあたられ、多数の後進を指導育成されました。

ご専門は化工熱力学で、特に低温高圧気液平衡の研究で優れた業績を挙げられました。また、石油学会の永年評議員、同学会中国四国地区会の幹事として学会の発展にご尽力されました。今後のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(化学工学講座 岡田 育穂 記)

生物生産学部畜産科学講座

岡田 育穂
おかだ ゆくほ
記

（部局歴）

昭29・4 (北海道立種羊場)
昭30・11 (北海道大学)
昭46・10・11 水畜産学部
昭54・4 生物生産学部

昭和四十六年に、水畜産学部に赴任いたしました。当時、学部にはまだ学園紛争の余燐が残っていましたが、すでに学部改組の動きも始まつていて、活気に満ちておりました。私は中国地方での生活は初めてでしたので、心配しながら赴任しましたが、幸いにもよき師友に恵まれ、自由な雰囲気のもとで今日まで仕事を続けることができました。

広大へ着任以来二十三年余で停年を迎えることになりますが、この間、学部改組、博士課程の設置、西条への移転など大きな変革がありました。特に、農場長として農場の西条移転にかかわったこと、また生物圈科学研究科の創設時には、研究科の運営に関して総合科学部の先生がたと論議したことなどは深く

*

*

印象に残っております。

今まで、大学院の重点化に向けて新しい動きが始まっておりますが、広島大学のさらなる発展を祈念いたしております。

*

*

*

鷄の血液型、品種分化、抗病性の遺伝子支配などの研究分野は、岡田先生の業績抜きには語れません。先生は多くの学会・研究会において、評議員、理事、会長職を歴任され、その深い学識と暖かい人柄で多くの人から慕われております。

普段の先生は、口数が少なく学問に厳しいので、学生にとっては恐い先生であったかも知れません。しかし、お酒が入ると明るく楽しい話をされるなかで、物事の本質を見抜く鋭い見識は多くの人を魅了しました。いつまでも変わらぬ活躍をお祈りいたします。

(家畜育種学講座 山本 義雄 記)



オタワにて— GAVORA 博士夫妻と一

（部局歴）

昭33・8 (京都大学)
昭42・7 医学部附属病院

昭43・8 原爆放射能医学研究所

原爆放射能医学研究所病態治療研究部門 藏本淳

日本の医学会にも貢献されました。医学領域はもとより、スポーツやクラシック音楽にも造詣が深い先生は、新天地においても、豊富な人間性を前面に立ち向かわることを願っております。

(病態治療研究部門 藤村 欣吾 記)

昭和三十六年設置の原医研と医学部附属病院内科（原医研）で昭和四十二年からお世話になりました。この間、部門増、施設整備とともに、医学研究科への協力講座、また診療科として、医学教育、研修、診療の円滑な運営を全面的に支援していただきました。

一昨年、設立三十周年を迎えた折り、広島大学長、医学部長をはじめ学外からは放影研理事長、県医師会長などから、原医研の点検・評価をしていただき、これから原医研の果たすべき責任と取り組むべき課題を示してもらいました。昭和六十一年に発生した原発事故の現地でヒロシマの情報と実績を必要とした。日本からの国際協力や医療援助が要請された状況が追い風となつて、念願の改組が実現いたしました。全国の国立大学附置研究所の統廃合が進むなかで、改組が実現したことは、まさに、天の時、地の利、人の和が揃つて初めて可能であったことを実感し、感謝しています。

*

*

*

先生は、京都大学より赴任以来、被爆者医療、血液疾患を中心とした教育、研究、診療、国際協力の四つの柱を充実発展させてこられました。若い医師への被爆体験の継承も忘れられない一面です。常に温かく、織細な心遣い、本質を見抜く鋭さ、誠実な対応は人々を引きつけ、研究所長、日本臨床血液学会総会会長等を歴任され、研究所や広島大学の発展のみならず、

附属福山高等学校 新良貴 健三

（部局歴） 第35回日本臨床血液学会総会懇親会



学会で（右から4人目）

人生の峠を越した頃、少々の不安を抱きながら、県立福山誠之館高校から十三年前にまいました。このたび無事に定年を迎えることになりましたが、これもひとえに皆様がたのおかげだと、感謝の念でいっぱいです。

中学校、高等学校の一貫教育のすばらしい



ありし日の中二遠足



四半世紀以上身を置いたこの学校を去るのはちょっと淋しいが、

学校で、「教えることは割合簡単かもしれないが、育てることはむずかしい」と聞いたことがあります。この機会に、「もう一度デサンからやり直し、そこから何かを探り出そう」としたのですが、私の中には何も残っておらず、ただ恥じ入るばかりです。

これからは新しい生活になりますが、福山を出発点として東京が終点とするならば、今、京都ぐらいだと思って、これまで支えていた命力をたくしく思っております。

末尾になりましたが、附属福山のさらに大きな発展を期待しながら、お別れのご挨拶とします。

*

先生は、昭和五十七年県立福山誠之館高校から本校に赴任され、十三年間にわたり人生における美術の大切さと楽しさを教えてくださいました。また、気さくなお人柄の先生は、バラ園の手入れなども気軽にされ、教職員や生徒から大変親しまっていました。

先生は、一九五六年「創元会展」初入選、一九六八年「日展」初入選以来、昨年に引き続き一九九四年も福山市芦田川下流の風景を画いて「日展」に入選されるなど、輝かしい業績を残たれる。

学園で、「教えることは割合簡単かもしれないが、育てることはむずかしい」と聞いたことがあります。この機会に、「もう一度デサンからやり直し、そこから何かを探り出そう」としたのですが、私の中には何も残っておらず、ただ恥じ入るばかりです。

これからは新しい生活になりますが、福山を出発点として東京が終点とするならば、今、京都ぐらいだと思って、これまで支えていた命力をたくしく思っております。

これからは新しい生活になりますが、福山を出発点として東京が終点とするならば、今、京都ぐらいだと思って、これまで支えていた命力をたくしく思っております。

これからは新しい生活になりますが、福山を出発点として東京が終点とするならば、今、京都ぐらいだと思って、これまで支えていた命力をたくしく思っております。

附属福山中学校

藤重敦臣

(部局歴)

昭32・4 (公立学校教員)
昭43・4 教育学部附属福山高等学校
昭45・4 教育学部附属福山中学校
昭47・4 教育学部附属福山高等学校
昭53・6 附属福山高等学校

平3・4 附属福山中学校

A棟二階トイレを愛する会

福山附中・高のトイレに次の張紙がある。

「なぜ僕たちはスリッパを捨てるのでしょうか。これは次の人気が気持ちよく利用できるようにするためです。さあ、あなたも今日から揃えましょうね。」

「A棟二階トイレを愛する会」

これを見て全員がスリッパを捨てるとは限らない。そう簡単にこのような習慣が身につくものでもない。しかし、トイレの前できれいに揃っているスリッパを見る時、「目立たないちょっととした行為、他人のためになるなんて思つてもいい自然な姿」に心を打たれる。

「トイレの張紙」で培われた私の心は満足感でいっぱいである。

英語の教師として、藤重先生はまさにプロという言葉がぴったりです。

当校で公開研究会が行われ、共同で作成した指導案で他校のある先生が授業することになっていた時、その人が病気になり、急遽、当日になつ

て藤重先生がその先生の指導案で授業することになりました。それは完璧な授業でした。

藤重先生は口調は常に穏やかですが、厳しく私たちを指導してくださいました。心のどこかからも画伯としてますます円熟期に入ついかれておりました。

（附属福山中・高等学校 横本正勝 記）

附属東雲中学校

古谷芳太郎

(部局歴)
昭34・4 (公立学校教員)
昭48・4 教育学部附属東雲中学校
昭53・6 附属東雲中学校

思い起こすこと

生まれたのが神奈川の逗子、幼稚園は青森の大湊、国際学校入学が長崎の佐世保、新制中学校入学は防府、新制高校入学時は舞鶴にと各地転々と学制改革の谷間を歩みながらの九年生まれ、しかも、浪人して入学した広大教育学部東雲分校小全四年課程も、これまた第一期という不思議な巡り合わせでした。

その私が、教生時代の指導教官であった松

野脩輔先生のお声がかりで東雲中学に赴任したのが昭和四十八年。東雲中の為ならと情熱に燃えてから、いつの間にか二十二年の歳月が流れてしまいました。ところが、東雲中の為に何ができたか自分に問うてみた時、何の役にも立てなかつたではないかという答えのみが虚しく返ってきます。

しかし、二十一年という歳月は、自分にとっては貴重な一頁でした。常にフォローしてくれた同僚や諸先輩、事務職のかたがたに厚く感謝いたすとともに、広大のますますのご発展をお祈りいたしております。

*

*

*

謹厳実直な先生。言葉を、挨拶を、授業を大切にされ、「老師の一喝」を聞く思いもしました。私どもの印刷物にも丁寧に目を通され、誤字に朱が入っていたりする。研究室ではよくP・モーリアやショパンを聞いておられた。夜の部でもカラオケ不要。朗々たる「サンタルチア」のあとは簫として声も出す。二年間の副校長時代の施設向上も先生のお陰だ。

二十一年間お世話になつたバチンコを愛された先生、謹厳さの中に海軍魂、若さ、ロマンを変わらず持ち続けてください。

（附属東雲中学校 柴原健児 記）



昭和五十八年 親睦魚釣り大会（山口 牛島で）

事務系・技術系退職者

経理部管財課

川根 齊

（部局歴）
昭39・4 工業教員養成所
昭43・5 工学部
昭59・4 経理部管財課

かね

いつき

昭和三十九年工業教員養成所に採用され、夜勤を含む不規則な交替制勤務の中、三十一年間という長い間大変ご苦労さまでした。その間、平成元年には副守衛長となられ、部下には温厚篤実な指導をされ、他の人から慕われております。

＊

私は、昭和三十九年以来三十一年間勤めた広島大学を退職することになりました。一言で三十一年とはいえ、私のこれまでの人生の半生であり、家族も二人を加え五人に、今では孫も六人の大家族になりました。

私が一番心に残っているのは、やはり工学部の校舎の取り壊しです。十六年間見ていた校舎が、東広島への引越しのためその姿を消した時のことです。何ともいえない胸の痛みを今でも覚えています。今では、跡地にさまざまな施設が立ち並び、数多くの人たちが利用しています。移り行く時代とともに、またこれからも大いなる躍進を続けることと思います。これまで勤めることができたのも、皆様のお力添えがあつてのことだと感謝しております。

最後に、広島大学のますますのご発展と



大阪大学教養部研究室でワニの標本をパックに

も、皆様がたのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

＊

また、川根さんとの思い出として、公休の時宮島に潮干狩に行った際、貝掘りに夢中になりました。潮が満ちて来たのも忘れるくらい一生懸命に掘つておられたことが、今でも瞳の奥に強く残っています。

退官後は健康に留意され、可愛いお孫さんと一緒に過ごされますよう心からお祈りします。

（管財課管財第一係 平本 春美 記）

保健管理センター

花村昭子

（部局歴）
昭33・4 医学部附属病院
昭37・12 教育学部東雲分校
昭53・6 学校教育学部
昭56・4 厚生課
平3・4 保健管理センター

のゆく三十七年間だったと自画自賛しています。看護学校を含めて人生の半分を広島大学いう温室の中で過ごして、社会の中に飛び出すことには多少不安がありますが、また違った新しい人生を歩む期待をも持っております。

最後になりましたが、統合移転も終盤に向かい、ますます広島大学が学園都市の中枢として発展していくことを念じてやみません。

＊

＊

＊

花村さんは、学生および職員の健康管理に多大な功績を残されました。

一緒に仕事をさせていただいたのは五年間でした。心配り、「手際の良さ」、「多行動をこなす体力」等々は、いつも私を圧倒させ、経験豊富な花村さんに随分支えられてきたような気がします。

率直に意見を言われるところが私は好きで、公私にわたり数多く助言していただきました。両親と離れて暮らしている私にとっては、非常に心強い味方であり、母親のような存在でした。そう思われている方は、たぶん多くいらっしゃることだと思います。

また、墨絵や川柳など多才な趣味をお持ちで、いつも刺激を受けおりました。これからは、お好きな旅行でもたくさんして、第二の人生を楽しくお過ごしください。今後のご健康を心よりお祈りいたします。

（厚生課 岡田真紀記）

全国保健管理研究集会の後、上高地で（中央）

学校教育学部事務部

石山嘉三

（部局歴）
昭29・9 会計課
昭39・4 経理部経理課
昭39・6 学生課
昭42・6 経理部主計課
昭46・4 原爆放射能医学研究所
昭50・4 施設部企画調査課
昭53・4 医学部
昭57・10 教育学部
昭60・4 施設部企画課
平2・4 歯学部業務課
平4・10 学校教育学部

昭和二十九年に広島大学会計課に奉職して以来、早くも四十年が過ぎ去つてしましました。この間、多数の先生がた、諸先輩のご指導により、また同僚、後輩に支えられて、このたび無事に定年を迎えることができました。

在職中の思い出は、それぞれの職場で日々あります。なかでも昭和四十四年の大学紛争、それに続く大学改革、西条地区への統合移転が挙げられます。特に移転事業では、西条キャンパスの用地買収や排水処理施設の建設に関し、昼夜を問わず直接地元住民のかたと折衝し、数多くのことを教えられました。





職員旅行・祖谷のかずら橋にて

かおすそ分けに預かりました。
風貌・風格どおり泰然自若とした態度で私たちに接してこられ、安心して仕事ができました。ありがとうございました。

(学校教育学部 古屋 紀二 記)

法学部・経済学部事務部	
小田太郎	記

（部局歴）

昭32・12	庶務課
昭39・4	庶務部庶務課
昭42・10	教務課
昭46・4	庶務部人事課
昭48・4	（吳工業高等専門学校）
昭50・4	歯学部
昭54・4	庶務部人事課
昭57・4	学校教育学部
昭60・10	理学部
昭62・4	生物生産学部
平2・4	工学部
平4・4	法学部・経済学部

あれから二十年余、統合移転地は当時からして想像もつかないほど緑に囲まれ、立派に整備された新キャンパスへと変貌しました。何の巡り合わせか、学部移転業務を担当させていただき、教職員一致協力して、定年退職と同時に無事に学部の移転が完了できたことが、大学生活での最後の思い出となることでしょう。ありがとうございました。

終わりに、広島大学のますますの発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。



三月末で三十
七年余の公務員
生活を、法学部
・経済学部を最
後に定年退職す
ることになります
した。

事務長さん、長い間ご苦労様でした。しかも、ますます健康で定年を迎えたことは、非常に喜ばしい限りです。

大学の学部移転としては最後の学校教育学部で陣頭指揮して、無事移転を推し進められたこと、まさに感慨深いものがあると思われます。できれば、新キャンパスで真新しい事務長デスクに座って、建ち並ぶ高層棟を見ながら移転の実感を味わつて欲しかった、そんな気がします。

スポーツ万能、特に野球は、広大職員野球部の投手として大いに活躍され、最近では野球部長として後輩の指導にあたっておられました。また一方では広大きつてのオシャレで、ネクタイなどの趣味も相当なもので、私たちも何本

当時の輸送機ですので、終了したのは明け方の五時近くで、その後は思い思い長い椅子で仮眠をとつたこと。また、八月、学生に占拠されていた広大の封鎖解除のため機動隊の導入に踏み切り、初日の夕方、本部の屋上から火炎瓶が飛んでくる中を、催涙弾のガスに涙を流しながら機動隊の盾に守られ、玄関まで消火器を運んだこともあります。いずれも今後二度と経験できません。

三十七年前にはあまり目立たなかつた、東千田キャンパスの森戸道路の見事なメタセコイアと法経済学部前のアメリカ楓の紅葉も、もう少し経つと、緑化フェア開催のためキャンパスの整備で見られなくなるのでは、と心配しております。

退職後は、持病を薬でごまかして勤務してきた体を十分に休養せながら、やりたいときやりたいことをのんびりとしたいと思っています。家が東広島市ですので、大学の附属図書館を利用できればと思つています。最後に、広島大学のますますの発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

時々、そつと机の引出しから薬を出し「シユツ！」と吸引されている姿を拝見し、三十七年の長い間ハンデを克服されたご努力に、「本当にご苦労さまでした」と頭が下がります。いつも周りに配慮され、職場の和を大切にし、後輩を親切に指導される人でした。また名前とおり長男で、家庭においてもご両親の面倒を良くみられ、責任感が強い優しい人です。

「危ない！ もつとスピードを落とさないと！」たまではもつとスピードを落とさないと！ たまたま同じ官舎で、一緒に帰ることも多かつた私の運転は、さぞかし危なっかしくて、胃を悪くされたことでしょう。

その後の人生が壮健で！

（厚生補導係 西本 隆行 記）

法学部・経済学部事務部
木原英記

（部局歴）
昭和二十八年広島大学会計課に奉職し、最後を法學部・経済学部で迎えますが、いつの間にか四十二年の歳月が過ぎました。今思えば：経理・学務と、それぞれの職場で実際に多くのほんとうに素晴らしいがただと出会うことができました。今は亡きかたがたとの悲しい別れや楽しかった日々のことが、走馬灯のように脳裏を駆け巡ります。
いたお陰で、多くの楽しい思い出を作ることができます。国を越えた人々との出会いや多くの人の出会いが、私の大切な心の財産となりました。広島大学に勤めさせていただいたことをとても幸せとthoughts。
（部局歴）
昭和28・7 会計課 昭39・4 経理部主計課 昭50・4 教育学部 昭52・4 総合科学部 昭56・4 法學部・経済学部



留学生の方とギョーザを作り楽しいひと時（我が家にて）

今までお世話をになりました多くのかたがたに、心より厚く御礼申し上げます。これから的人生は、今までの経験を活かし少しでも何か社会に寄与できれば、と念じております。

最後になりましたが、広島大学のご発展と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

*

*

*

*

木原英さんは、昭和二十八年に会計課を振出しに、附属幼稚園・総合科学部を経て、法学部・経済学部には昭和五十六年から勤務されました。

法学部・経済学部では、主に留学生業務を担当され、現在までに二百名を超える留学生の世話を一手に引き受け、留学生からは「お母さん」として慕われておりました。

帰国した留学生からは、結婚式などの母國への招待が数多くあったやに聞いております。これからは、在職中にできなかつた留学生の母國への訪問をゆづくりとされたらいかがでしょうか。

健康に留意され、楽しい日々をお過ごしくださるよう願っています。

(学務第二係 原口 健一 記)

医学部皮膚科学講座

片岡 節子
かたおかせつこ
（部局歴） 昭38・10 医学部

*

*

*

片岡さんは、電気エンジニアに来られて以来、皮膚泌尿器科学教室で加藤篤二教授、以後、皮膚科学教室で矢村卓三教授、続いて退官まで山本昇壯教授と、三人の教授の下で働いてこれらました。

その間、文部技官として主に組織学的検査の仕事をされ、教室の日常診療および研究業績に多大の貢献をしてこれました。加えて医局の事務も務めておられ、皮膚科の医師は片岡さんに大変お世話になつてきました。

片岡さんの歴史はまさに皮膚科医局の歴史とも言えるもので、多くの教室出身者が片岡さんのもとで学びました。加えて医局のファンです。(皮膚科学講座 高路 修記)

附属図書館医学分館	
昭32・3 医学部	附属図書館医学部分館
昭33・4 附属図書館整理課医学分館	附属図書館整理課工学部分館
昭34・4 附属図書館整理課医学分館	附属図書館整理課工学部分館
昭35・4 附属図書館整理課医学分館	附属図書館整理課医学分館
昭36・5 附属図書館整理課医学分館	附属図書館整理課医学分館
昭37・4 附属図書館情報管理課医学分館	附属図書館情報管理課医学分館
昭38・4 附属図書館情報管理課医学分館	附属図書館情報管理課医学分館

さる検定試験申請中のもの

覚しい展開をみ

せ、学内キャン

パスや世界を繋

ぐ LAN や IN

TERNET の

情報伝達網が、

一元化により有

機化する図書館に根を張り、将来の本学からの方へも寄与できるようになります。

新図書館に希望し、楽しみにしています。

「また名物男が一人いなくなるな」と、ある教官がぼつりと呟かれました。松川さんは震

地区的歴史そのもののような方です。強い意思と忍耐力、それを支える頑強な身体、図書館の仕事はもちろん、さまざまな職層の人たちの相

談事などにもよく乗つておられました。お世話になつた方も多いのですが、

英会話と剣道(三段)が大好きな趣味、昼休みに黙々と竹刀を振つておられる姿は古武士のよう。お酒を入れば頬一笑、トレード・マークの黒い大きな鞄でどこまでも歩いてゆかれます。人曰く「歩く図書館」。

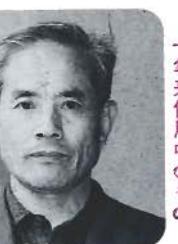
「もしできれば英語の学校へでも入りたいな」、松川さんの夢とお聞きしています。いつまでもお元気でお過ごしください。

(医学分館 土肥 善嗣 記)

四十一年余りの長い間、大学病院の電話交換手、電話交換室長として交換業務一筋に勤務され、お元気で定年を迎えることができました。皆様長い間本当に有難うございました。

以来四十一年、良き上司、同僚、家族に支えられ無事に定年の日を迎えることができましたことを幸いに思います。皆様長い間本当に有難うございました。

四十一年余りの長い間、大学病院の電話交換手、電話交換室長として交換業務一筋に勤務され、お元気で定年を迎えることができましたことを幸いに思います。皆様長い間本当に有難うございました。



員のかたがたは皆様退職され、気がつくと私が阿賀時代の最後の一人となりました。

三十二年に国立大学となり広島に移転、交換室も四号館、十一号館、外来棟と時代は流れ、昨年三月からはダイヤルインとなりました。交代制勤務から解放されて、今まで聞きなれていた大勢のかたがたの声が次第に遠ざかり、少し淋しい気がいたします。この頃やつと落ち着いた生活に戻りました。

きなれた大勢のかたがたの声が次第に遠ざかり、少し淋しい気がいたします。この頃やつと落ち着いた生活に戻りました。

以来四年、良き上司、同僚、家族に支えられ無事に定年の日を迎えることができましたことを幸いに思います。皆様長い間本当に有難うございました。



昭和二十九年

医学部附属病院看護部

（部局歴）

昭41・5 医学部附属病院看護部

廣瀬末子



より二十九年も
の長い間、良い
環境のもとで勤
務をさせていた
だき、このたび
定年を迎えるこ
とができますのも、多くのかたがたのお陰と
感謝の気持ちでいっぱいです。

当初は何を見ても初めてのことばかりで、
特に専門用語がわからず、そのたびごとに相
手構わず納得をするまで教えていただきまし
た。今ではつきりと覚えております。

本当にご親切にしてくださいまして、まこと
にありがとうございました。この感謝の気
持ちを深く胸に刻み、これから的人生を、少
しだけお返しができるよう心掛けなが
ら、日々の生活を大切に送っていきたいと思
います。

最後になりましたが、皆様がたのご健康と、
広大病院のご発展をお祈り申し上げます。

* * *

廣瀬末子さんは、昭和四十一年より大学病院
に勤務され、東病棟二階で看護助手として資務
を全うされました。

明るく、元気の良い彼女の「おは
ようございます」の声で、一日が気持ち良く始
まるのです。

また、私たち看護婦以上に患者さんを気遣い、
昼・夕のお茶配りの時はもちろん、廊下を歩い
ている時に「気をつけてね」と声を掛けられ、
元気づけられた患者さんも多かったです。
細かい所によく気がつかれ、いい加減なこ
とでした。

とのできない性格で、まさに縁の下の力持ちと
して、長年私たちを助けてくださいました。

退職後はご健康に留意され、長年病棟の為におお
い楽しんでいただきたいと願っております。
本当におつかれさまでした。

定器等はありませんでした。

しかし、今思うと懐かしく思い出されます。
年々設備も充実し、今では特定機能病院にな
るまでに発展整備されてきました。現在は、
医療技術の開発とその機能を発展させるため
のオーダリングシステム等の設備計画がなさ
れていますが、ぜひ完成することを期待して
います。

これから広島大学医学部附属病院のます
ますの発展と皆様がたのご健勝を、心より祈
念いたします。

医学部附属病院薬剤部

（部局歴）

昭42・6 医学部附属病院薬剤部

吉田 稔

（看護部 森脇愛子記）

薬剤部にお世話になり、はや三十七年が過ぎ
ました。この間大過なく過ごすことができま
したことは、先輩の諸先生がた、職員の皆様
がたのお陰によるものと感謝しています。

勤務当初の病院は、元陸軍兵器廠を改造し
た赤レンガ造りの建物で、中は薄暗く何かと
不備、不便であり、薬剤部も三箇所に分散し
ていました。薬剤部の設備も、現在使用して
いるような自動分包器ではなく、薬包紙で薬を
用ひの気配りや面倒見も良く、威風堂々とした
体格と、何事にも物怖じすることのない積極性
がありました。この間大過なく過ごすことができま
したことは、先輩の諸先生がた、職員の皆様
がたのお陰によるものと感謝しています。

勤務当初の病院は、元陸軍兵器廠を改造し
た赤レンガ造りの建物で、中は薄暗く何かと
不備、不便であり、薬剤部も三箇所に分散し
ていました。薬剤部の設備も、現在使用して
いるような自動分包器ではなく、薬包紙で薬を
用ひの気配りや面倒見も良く、威風堂々とした
体格と、何事にも物怖じすることのない積極性
がありました。この間大過なく過ごすことができま
したことは、先輩の諸先生がた、職員の皆様
がたのお陰によるものと感謝しています。

吉田先生は、大学病院が県から移転した直後
の、周囲も田畠に囲まれた長閑な時代から段原
再開発の現在まで、霞地区の変遷とともに歩ん
でこられました。率先して職務にあたられ、周
囲への気配りや面倒見も良く、威風堂々とした
体格と、何事にも物怖じすることのない積極性
から、周囲の人々にとってとても頼りになる存
在です。

軟式テニスをはじめスポーツも万能で、開幕
も初段と、文武両道に秀でておられ、今後の多
方面でのご活躍を期待しています。

（薬剤部 木平健治記）

医学部附属病院放射線部

（部局歴）

昭34・6 医学部附属病院
昭47・4 医学部附属病院放射線科
昭54・10 医学部附属病院放射線部

斉藤温己

これからもますます進歩していく医療の中
にあって、広島大学医学部附属病院の発展を
お祈りいたします。

放射線部、放射線科の皆様には長年にわた
るデジタルの時代まで、無事勤めを果たし
たがたのご支援の賜物と感謝いたします。

このように、何もかも手作業であつたアナ
ログの時代から、今日のコンピュータ化され
たデジタルの時代まで、無事勤めを果たし
たがたのご支援の賜物と感謝いたします。

定年を迎えることができますのも、多数のか
たがたのご支援の賜物と感謝いたします。

治療も行うようになつてきました。

このように、何もかも手作業であつたアナ
ログの時代から、今日のコンピュータ化され
たデジタルの時代まで、無事勤めを果たし
たがたのご支援の賜物と感謝いたします。

定年を迎えることができますのも、多数のか
たがたのご支援の賜物と感謝いたします。

これから第二の人生を歩まれるにあたり、私
どもに対してもこれまでと変わらぬ指導ご鞭撻
をお願いしたいと思います。本当に長い間有難
うございました。

（放射線部 伊藤勝陽記）



上海市第六人民医院にて

* * *

昭和三十三年から広島大学医学部附属病院
薬剤部にお世話になり、はや三十七年が過ぎ
ました。この間大過なく過ごすことができま
したことは、先輩の諸先生がた、職員の皆様
がたのお陰によるものと感謝しています。

勤務当初の病院は、元陸軍兵器廠を改造し
た赤レンガ造りの建物で、中は薄暗く何かと
不備、不便であり、薬剤部も三箇所に分散し
ていました。薬剤部の設備も、現在使用して
いるような自動分包器ではなく、薬包紙で薬を
用ひの気配りや面倒見も良く、威風堂々とした
体格と、何事にも物怖じすることのない積極性
がありました。この間大過なく過ごすことができま
したことは、先輩の諸先生がた、職員の皆様
がたのお陰によるものと感謝しています。

吉田先生は、大学病院が県から移転した直後
の、周囲も田畠に囲まれた長閑な時代から段原
再開発の現在まで、霞地区の変遷とともに歩ん
でこられました。率先して職務にあたられ、周
囲への気配りや面倒見も良く、威風堂々とした
体格と、何事にも物怖じすることのない積極性
から、周囲の人々にとってとても頼りになる存
在です。

軟式テニスをはじめスポーツも万能で、開幕
も初段と、文武両道に秀でておられ、今後の多
方面でのご活躍を期待しています。

（薬剤部 木平健治記）



* * *

昭和三十四年に県立小島病院から
赴任した当時は赤いレンガの建物で、
冬には患者さんの待合室でもあつ
た廊下に炭火の入

ところでは斉藤さんは、私ども放射線部の者に
とり幸運の女神でした。平成元年以後、概算要
求もしくは補正予算で放射線部の装置は一挙に
整備されてきました。幸運の女神には後ろ髪が
無いと言われておりますが、定年を迎えるられる
斉藤さんの後ろ髪が徐々に薄くなっていく様子
は、まさに女神そのものです。

これから第二の人生を歩まれるにあたり、私
どもに対してもこれまでと変わらぬ指導ご鞭撻
をお願いしたいと思います。本当に長い間有難
うございました。

（放射線部 伊藤勝陽記）

医学部附属病院放射線部

中垣五郎

(部局歴)
昭31・8 医学部附属病院
昭47・4 医学部附属病院放射線科
昭54・10 医学部附属病院放射線部

「光陰矢のごとし」とか申しますが、三十九年間があつと九九年間に過ぎ去つてしまいまし

た。昭和三十一
年四月、国立に移管されたばかりの医学部附属病院（吳市広町）にお世話になることになりましたが、定員がなく、無給で週二回音戸分院に出向したのが懐かしく思い出されます。

当時的人は皆退職され、私が最後となりました。

本院の広島移転、広分院出向、新築移転といろいろな事業がありましたが、大過なく今日この日を迎えることができましたことは、よき同僚のかたがたに恵まれたことと厚く感謝いたします。本当にいろいろと有難うございました。これからは健康に留意して、有意義に過ごすよう努めます。

医学部附属病院の今後ますますのご発展を祈念するとともに、ご交誼賜りました数多くの職員の皆様のご多幸を祈つてやみません。長い間有難うございました。

*
三十九年間の長い間、診療放射線技師としてのお勤め本当にご苦労さまでした。
その間、放射線技術に多くの功績を残されました。また平成四年には厚生大臣より、国民医療の向上発展に寄与した功労者として大臣表彰を受けられました。先輩は、つねづね良質な放射線サービスに気



歯学部業務課
新川恭子

(部局歴)
昭26・9 広島県立医科大学
昭27・4 広島医科大学
昭31・4 医学部附属病院
昭39・4 医学部附属病院業務課
昭51・4 医学部附属病院医事課
平2・4 歯学部業務課
昭2・4 歯学部企画調査課

企画調査課・夏の一泊旅行 鳥取砂丘にて

とか越えることができました。そのお返しもできないまま去ることになります。

一九六二年、原医研発足時に国立公衆衛生院から転任、のちに医学部と歯学部附属病院に勤務、前半は研究用放射線施設で、後半はこの道を選択した目的の医療の中で勤務させていただき、いずれも恵まれた環境でした。

原医研では放射線の生物影響、放射能の体

内量測定、黒い雨地域の調査に、医病では放射線治療の急速な発展時期に、歯病では画像

診断の充実期に、診療放射線技師として取り組ませていただいたことは、感謝に絶えません。

一方、社会的には、放射線技師会や学会活動を通じ、放射線被曝の安全管理に努力しました。影響が発現せず、放射線利用による有益性を一層高める応用技術に関する研究は、

今後も続けたいと思います。

事務系、研究系、医療系の大勢のかたがたに深謝するとともに、このことを私の宝物として、広島大学にお別れを申します。

砂屋敷技師長は、原医研時代より放射線技術の指導的人物のお一人として、被曝の安全管理について研究、臨床の場で一貫して努力されま

す。健康に十分留意され、実り多い第二の人生を過ごされることを願っております。

(業務課収入係 横路正記)

歯学部附属病院歯科放射線科
砂屋敷忠

(部局歴)

昭31・7 (国立公衆衛生院)

昭37・4 原爆放射能医学研究所
昭55・4 医学部附属病院放射線部
昭58・4 歯学部附属病院歯科放射線科

診療室で検査中のひとこま

ただ黙々と歩いていたら、いつの間にか定點を通過しそう、というのが実感です。三十年の間、途中いくつかのランドマークは、たくさんのかたがたのご支援や励ましてなん



工学部親睦会で出雲大社境内にて

島津信子

（部局歴）
昭30・7 教育学部東農分校
昭38・4 文部省管理局教育施設部
平2・4 工学部
昭59・4 文学部
平2・4 工学部

工学部事務部
島津信子

した。歯病には十二年勤務されました。全病院的な構想で取り組んでいただきました。口腔領域における放射線治療の計画（未実現）、CT装置の導入をはじめ、将来展望にたって他に先駆けてCR装置や画像保管を計画し、運用されました。

今後は、新しい大学で教官として後進の指導にあたられる由、まことにふさわしく喜ばしい限りです。（歯科放射線科 和田卓郎記）

* * * * *

快活で明朗なお人柄の島津さんが退職されることになりました。

いつも工学部玄関に生け花を飾られ、職場に潤いと活気をもたらされた島津さん。長い間のお勤めご苦労さまでした。

若い頃の先輩は、卓球では全国大会で活躍されると常に感性をリフレッシュされ、昨年の大学祭では工学部ギャラリーを企画されるなど、学生とともに歩む厚生補専業務を展開されました。

いつも心持ちの若い島津さんが定年退職されることは信じられないことです、退職後は健康に留意され、豊富な趣味を生かして地域社会でも活躍されることをお祈りいたします。

仕事に、スポーツに、一生懸命頑張つて來たつもりですが、なかでも印象深いのは、文部施設時代に島根医科大学開校の施設関係に携わったことです。校舎棟、研究棟、病院棟等が竣工し、立派な学舎群になつた時の感動

は今も忘れられない思い出です。その医大もはや創立二十周年を迎えることは感無量です。

広島大学在職十八年余りのうち、最後の十一年間は、文学部、工学部ともに厚生補専業

の仕事をさせていただき、若い人たちとの出逢いに多くのことを学びました。また、良き友に恵まれた人生に、誇りと喜びを噛み締めております。これも皆様がたのご厚情の賜物と感謝いたしております。

最後になりましたが、皆様がたの健康とご活躍を心からお祈りいたします。

工学部化学工学講座
島津千代子

（部局歴）
昭30・6 理学部
平元・6 工学部

工学部学校工場係
大野明正

（部局歴）
昭29・4 民間
昭52・4 工学部

* * * * *

大野さん、十八年間のお勤めご苦労さまでした。

会社での経験を発揮され、複雑な実験装置の製作での創意工夫は、依頼教官から絶大な信赖を得ておられました。また、数年前、学内にいた一匹の身籠った雌犬を家につれ帰るという心

やさしい方でもあります。仕事帰りにしばしばお酒を飲みに行きましたが、その楽しみもなくなり、寂しくなります。

第二の人生をいつまでも元気で過ごされんことをお祈りします。

生物生産学部附属練習船豊潮丸

前田良雄

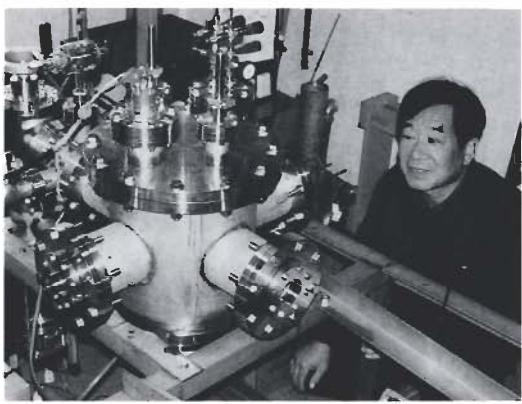
（部局歴）
昭28・12 〔旧国鉄〕
昭63・4 生物生産学部附属練習船豊潮丸

さらに、日常生活の習俗慣例についても、女性らしい細やかさでその背景を含めて説明してくださいましたので、その方面には無知に近い戦後派の我々にとって、まことに有り難い存在でした。「慣れているから」と自前のワープロを使用していましたが、皆様ご存知のとおりの達筆で、勿体なくもたびたび祝儀不祝儀袋に代筆をお願いしてきました。

かくして当教室では、貴重な能史ばかりでなく礼儀作法の先生を失ったわけです。（化学工学講座 松村昌信記）

さらに、日常生活の習俗慣例についても、女性らしい細やかさでその背景を含めて説明してくださいましたので、その方面には無知に近い戦後派の我々にとって、まことに有り難い存在でした。基盤工事から完成まで順次見ることができました。

山林が造成され、立派な建物が林立し、移転当時の景観も一変してまいりました。キャンパスも学生たちで賑やかになりました。広島大学の歴史の中で、統合移転という大事業の最中に在籍できたことは幸運だったと思つております。



平成5年度に製作したプラズマ真空装置とともに

終わりに、広島大学の発展と、皆様がたの健康を心よりお祈り申しあげます。有難うございました。

大野さん、十八年間のお勤めご苦労さまでした。

会社での経験を発揮され、複雑な実験装置の製作での創意工夫は、依頼教官から絶大な信赖を得ておられました。また、数年前、学内にいた一匹の身籠った雌犬を家につれ帰るという心

やさしい方でもあります。仕事帰りにしばしばお酒を飲みに行きましたが、その楽しみもなくなり、寂しくなります。

第二の人生をいつまでも元気で過ごされんことをお祈りします。

生物生産学部附属練習船豊潮丸

前田良雄

（部局歴）
昭63・4 生物生産学部附属練習船豊潮丸

昭和六十三年四月、青函連絡船より豊潮丸に移籍され、機関長としてその職務を精いっぱい果たしてこられました。平成四年、私が船長の挙命を受け、更に持ち味を發揮していた大きさと期待してた折、突然「くも膜下出血」で入院されてしまいました。以来今日まで病との闘

いとなりましたが、幸い術後の経過が良く、日常生活の中でリハビリに努められております。関長としての長い経験と柔らかい物腰、慕われ人柄を遺憾なく發揮され、船舶の安全運行に貢献されました。

退職後は、故郷、函館で静養されるとのことです、十分に休養され、再び美声と名司会を披露していただきたいと思つております。短い付き合いとなりましたが、熱達の処世觀は深く心に焼きついております。モットウの和の精神とともに継承していきたいと思います。

（附属練習船豊潮丸 郷秋雄 記）

附属図書館事務部

福留武士

（部局歴）

昭35・5（神戸大学）

昭60・4（大阪大学附属図書館）
平3・4 附属図書館

* * *

福留事務部長は、優れた指導者の一人であり、大変エネルギッシュな方です。図書館学はもちろん、語学、文学、映画、スポーツ等、幅広い知識と趣味を持つおられます。卓越した知識と豊かな人生経験を持つおられるだけに、仕事面での指導には厳しいものがあります。反面、仕事を離れると、野球、柔道、ゴルフ、登山、飛行機、外国の話等、豊富な話題を館員に提供されます。

一方、家庭では信じがたいほどの恐妻家で、かつ愛妻家もあります。今後も、趣味を生かされながら、健康で充実した日々を送られることをお祈りします。

（附属図書館情報管理課 田川憲二 記）

附属学校部

和田天友

（部局歴）
昭29・1（大分大学）
昭39・3 医学部附属病院

昭39・4 医学部附属病院管理課
昭39・5 医学部附属病院業務課
昭40・6 医学部附属病院管理課
昭45・10 工学部
昭56・4 庶務部庶務課
昭62・12 法学部・経済学部
附属学校部

昭39・4 医学部附属病院管理課
昭40・6 医学部附属病院業務課
昭45・10 工学部
昭56・4 庶務部庶務課
昭62・12 法学部・経済学部
附属学校部

（和田さん）と呼ぶより「天友（てんゆう）さん」の方が通り名の和田さんが、今春、退職されます。三十年もの長い間ご苦労様でした。控え目にみえますが、毎年五百円也で貢いでくださいます。出所は色々あり、モザイクがかかって分かりませんが、お陰で事務室の面々は、美味しいコーヒーを感謝していただけます。



退職後は、故郷の別府で、ご夫婦一緒に温泉で疲れを癒してください。

（東雲附属学校係 川之口明也 記）

附属学校部

坂本恭之

（部局歴）

昭28・3 教育学部附属福山高等学校
昭30・5 教育学部福山分校
昭53・6 附属学校部

私は、昭和二十五年に当時町の福山附属高等学校に入学して以来、現在に至るまで附属での生活でした。夏の臨海学校、大山や三瓶山のキャンプまた冬山のスキーなど楽しかった学校行事が思い出されます。

この広島大学も、本年東広島市への統合移転が終わり、教育・研究が今までよりスマートに、質と量ともにこなせるスタッフにて発展されることでございましょう。日進月歩で世の中が目まぐるしいほど変化が激しく、それについてゆける大学が望ましいのではないでしょうか。私は、十年後、二十年後の発展された広島大学を拝見したいものと思つております。

（福山附属学校係 東正勝 記）

（部局歴）
昭29・3 医学部附属病院

に感謝しています。

私とバラとの出会いは、昭和三十年、当校の魔術部で最初に植えて以来、バラは春と秋には美しく咲き続けています。我が校のバラは、全国の学校では日本一だと自負しています。

学校を去るにあたり、地域の人たちに愛されれる学校にますます発展するよう心から祈っています。

当校出身で、昭和二十八年より現在に至るまで当附属福山に奉職され、気さくな人柄で誰からも親しまれ、人の世話をすることが大好きな方です。また、福山附属の坂本さんといえば、学内はもとより地元福山の地域の人たちにも「バラ造り」の

坂本として名声を知られた人です。

バラに限らず植物全般の知識は相当なもので、校内緑化の先頭に立つてご尽力いただきました。

現在の緑のすばらしい環境になったのも、坂本さんの努力のお陰だと、教職員をはじめ生徒・父兄・卒業生に至るまで非常に感謝しているところです。

白髪は増えましたが、万年青年のイメージをいつまでもお持ちになつて、健康で第二の人生をお送りください。

私は、昭和二十五年に当時町の福山附属



1993年5月、バラクラブ員と表彰式にて